

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数	
教科名	国語		科目名	現代の国語															
単位数	2	学科	看護科	学年	1 年	該当するコース・科 →									●	第 1 学 期	4 月 ～ 5 月	1 自己を見つめる 「こそそめスープ」 ★中間考査	7 1
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ (発 行 所)																			
① 教科書：新編現代の国語（東京書籍） ② 副教材：新編現代の国語 学習課題ノート（東京書籍） ③ 副教材：常用漢字ダブルクリア五訂版（尚文出版）																			
学 習 の 重 点 目 標																			
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することを目指す。特に実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。また、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。																			
	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			第 2 学 期	8 月 ～ 9 月	3 言葉と生活 1 分かりやすい説明をしよう 4 視野を広げる 「スキマが育む都市の緑と生命のつながり」 「無彩の色」 ★中間考査	14 1						
評価の趣旨	①定期考査の出来具合 教科書・副教材の内容を中心に作問 ②小テストの出来 授業で学習した内容・漢字についての小テストを実施			①学習課題ノート・課題プリント 単元毎に学習課題ノート・課題プリントを実施 ②意見発表の内容 学習活動の中で、考えを深め意見を発表する活動を実施			①授業中の態度や意欲 ②提出物の内容 プリント・副教材 ③自己評価・振り返り 小テストや考査後に自己評価や振り返りを実施												
評 価 の 基 準																			
	A（十分満足できる状況）			B（概ね満足できる状況）		C（努力を要する状況）			第 3 学 期	10 月 ～ 11 月	5 社会と関わる 「鍋洗いの日々」 「森で染める人」 6 言葉と生活 2 新聞記事を読んで意見文を書こう ★期末考査	13 1							
知・技	定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり、基本から応用まで概ね理解することができる。			B＋	B－	定期考査と小テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。													
思・判・表	探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができる。			探究的な課題やグループ活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができる。			探究的な課題やグループ活動にあまり組むことができていない。			12 月 ～ 1 月	7 世界とつながる 「美しさの発見」	18							
	応用的な問題にも計画的に取り組む、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができる。			応用的な問題に取り組む、ある程度の思考力や判断力が身についてきている。			応用的な問題にあまり取り組むことができていない。												
主体性・態度	予習・復習をして粘り強く学習に取り組む、グループ活動においても積極的に発言することができる。			真面目に学習に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。			あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。			2 月 ～ 3 月	8 未来に目を向ける 「真の自立とは」 付録 手紙・メールの書き方 ★期末考査	1							
	振り返るべき内容を的確に捉えて表現することができ、次の取り組みに活かすことができている。			振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かせていない。			振り返るべき内容をあまり考えることができていない。												
総 時 間 数																68			

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看	学期	学 習 内 容		時数	
教科名	国語			科目名	言語文化					D	学	進	文	理	文	理	護		第1学期	4月 ～ 5月		(現) 1. 随筆 さくらさくらさくら(俵万智) ○「花」といえば「桜」？
単位数	2	学科	看護科	学年	1年	該当するコース・科 →												●		6月 ～ 7月	【中間考査】	1
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ (発 行 所)																						
① 教科書：新編言語文化（東京書籍） ② 問題集：新編言語文化 学習課題ノート（東京書籍） ③ ④																						
学 習 の 重 点 目 標																						
言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。																						
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度					第2学期	8月 ～ 9月	(現) 3. 小説2 羅生門（芥川龍之介） (古) 2. 随筆 亀山殿の御池に(徒然草) (漢) 1. 漢文入門 訓読の基本 【中間考査】	4 4 3 1					
評価の趣旨	①定期考査の出来具合 教科書・副教材の内容を中心に作問 ②小テストの出来具合 授業で学習した内容・漢字についての小テストを実施				①学習課題ノート・課題プリント 単元毎に学習課題ノート・課題プリントを実施 ②意見発表の内容 学習活動の中で、考えを深め意見を発表する活動を実施				①授業中の態度や意欲 ②提出物の内容 プリント・副教材 ③自己評価・振り返り 小テストや考査後に自己評価や振り返りを実施													
評 価 の 基 準																		第3学期	10月 ～ 11月	(漢) 1. 漢文入門 故事成語 借虎威(戦国策) (古) 2. 随筆 うつくしきもの(枕草子) (古) 4. 物語 芥川（伊勢物語） 【期末考査】	5 5 5 1	
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）					12月 ～ 1月	(現) 5. 小説3 デューク(江國香織)	6						
知・技	定期考査と小テストで80点以上の得点である。				定期考査と小テストで55点～79点の得点である。				定期考査と小テストで30点～54点の得点である。					第3学期	2月 ～ 3月	(漢) 2. 漢詩 鹿柴 他 【期末考査】	6 1					
思・判・表	知識や体験を基に、表現したいことを明確にし、自分の体験や思いが伝わるように的確に表現することができている。				知識や体験を基に、表現したいことを明確にし、自分の体験や思いが伝わるように表現することが概ねできている。				表現したいことを明確にしたり、自分の体験や思いが伝わる表現をしたりすることがあまりできていない。													
	レポート作成やグループワーク、意見発表を通して、的確に批評、論述、発表、討論、批評などをすることができている。				レポート作成やグループワーク、意見発表において、論述、発表、討論、批評などをすることが概ねできている。				レポート作成グループワーク、意見発表において、論述、発表、討論、批評などをすることがあまりできていない。													
主体性・態度	常に粘り強く学習に取り組み、グループ活動においても積極的に発言することができている。				真面目に学習に取り組んでいるが、積極性を要する部分がある。				主体的に学習に取り組むことがあまりできていない。													
	振り返るべき内容を考えて表現し、次の取り組みに活かして自己を向上させることが継続的にできている。				振り返るべき内容を考えて表現し、次の取り組みに活かすことが概ねできている。				振り返るべき内容を考えたり表現したりすることだできておらず、自己を向上させる姿勢が見られない。													
総 時 間 数																		59				

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看	学期	学 習 内 容		時数					
教科名	数学			科目名	数学 I					D	学	進	文	理	文	理	護		第 1 学期	4 月 5 月		第 1 章 数と式 第 1 節 式の計算 1 整式とその加法・減法 2 整式の乗法 3 因数分解 ★中間考査	7			
単位数	3	学科	看護科	学年	1 年	該当するコース・科 →																				
教科書・副教材・（発行所）																										
① 教科書：新編数学 I（実教出版：数 I 7 0 7） ② 問題集：ラウンドノート数学 I（実教出版） ③ 補助教材：国試に向けた計算プリント ④																										
学 習 の 重 点 目 標																										
①数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。また、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的根拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 ②家庭学習をする習慣を身に付け、自己の学習方法を改善・調整しようとする姿勢を身に付ける。																										
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度																	
評価の趣旨	①定期考査の出来具合 問題は問題集の内容を中心に作問 ②小テストの出来具合 教科書の学習した内容についての小テストを実施				①定期考査毎に問題集への取り組み状況や記述内容を評価 ②定期考査後の振り返り課題レポートの記述内容を評価 ③グループ活動や発表の内容を評価				①授業中の態度や意欲を評価 ②課題レポートやノートの提出状況を評価 ③定期考査後に実施する自己評価・振り返り課題の提出状況や記述内容を評価																	
評 価 の 基 準																										
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）																	
					B＋		B－																			
知・技	定期考査と小テストの合計得点が 8 0 点以上であり、基本から応用まで万遍なく理解することができている。				定期考査と小テストの合計得点が 5 5 ～ 7 9 点である。		定期考査と小テストの合計得点が 3 0 ～ 5 4 点である。		定期考査と小テストの合計得点が 3 0 点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。																	
思・判・表	探究的な課題やグループ活動に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、適切に表現することができている。				探究的な課題やグループ活動に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができている。				探究的な課題やグループ活動にあまり取り組むことができていない。																	
	応用的な問題にも計画的に取り組む、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができている。				応用的な問題に取り組む、ある程度の思考力や判断力が身につけてきている。				応用的な問題にあまり取り組むことができていない。																	
主体性・態度	予習・復習をして粘り強く学習に取り組む、グループ活動においても積極的に発言することができる。				真面目に学習に取り組んでいるが、もう少し積極性を要する部分がある。				あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。																	
	振り返るべき内容をきちんと考えて表現することができ、次の取り組みにしっかり活かすことができている。				振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かしていない。				振り返るべき内容をあまり考えることができていない。																	
総 時 間 数																								84		

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数
教科名	理科		科目名	科学と人間生活												学 習 内 容	時数	
単位数	2	学科	普通科	学年	1 年	該当するコース・科 →								●	第 1 学 期	4 月 ～ 5 月	第1部 第1章 ヒトの生命現象 A タンパク質と遺伝子 B ヒトの視覚と光 C 血糖濃度の調節 D 免疫 【中間考査】	1 2 2 2 1
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ (発 行 所)																		
① 教科書：科学と人間生活703（啓林館） ② 副教材：科学と人間生活の学習ノート 書き込み式傍用問題集（啓林館） ③ ④																		
学 習 の 重 点 目 標																		
自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。																		
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度									
評価の趣旨	①定期考査 副教材の問題を中心に作問し、何を理解しているか、何ができるかを評価する。 ②小テスト 普段の学習の過程を通した知識及び習得状況について評価を行う。15分～20分程度。				①レポートの作成・提出 単元ごとに探求レポートを実施する。 ②グループでの話し合い・発表・相互評価 単元ごとにグループ活動を実施する。 ①、②を通して知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、				①授業中の態度、発言や記述の内容 ②提出物の内容 プリントや副教材の問題集の出来具合（すべての問題ができているか、答え合わせややり直しなどができているかなど）。 ③振り返り・自己評価 定期考査や小テスト、グループ活動後に自己の学習を自己評価してより主体的に学習に取り組む姿勢がある。									
	評 価 の 基 準																	
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）		C（努力を要する状況）											
					B＋	B－												
知・技	定期考査と小テストの合計得点が80点以上であり、基本的な概念や原理・法則などを理解することができている。また、基本問題よりも高度な解決能力を要する問題にも対応できる。				定期考査と小テストの合計得点が55～79点である。	定期考査と小テストの合計得点が30～54点である。	定期考査と小テストの合計得点が30点未満であり、基本的な概念や原理・法則などをあまり理解することができている。											
思・判・表	探求レポートやグループ活動に能動的に取り組む、自分の考えや意見を発表したり、適切に表現できる。				探求レポートやグループ活動に取り組む、ある程度自分の考えや意見を発表したり、表現できる。		探求レポートやグループ活動にあまり取り組むことができていない。											
	発展・応用的な問題にも、筋道をたてて考える力や図やグラフなどを読み取り情報を活用する力を身につけることができる。				発展・応用的な問題に対して、さまざまな知識を活用して思考、判断することが出来る。		発展・応用的な問題にあまり取り組むことが出来ない。											
主体性・態度	自然の事物・現象に主体的に関わりや見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探求しようとしている。				自然の事物・現象に関わりや見通しをもったり振り返ったりすることが出来る。		自然の事物・現象に関わりや見通しをもったり振り返ったりすることがあまりできない。											
	毎回の授業に真剣に取り組む、提出物の出来具合も非常に良い。また、授業での積極的な発言やグループ活動での振り返りが見られるなど主体的に学習に取り組む態度が見られる。				毎回の授業に真剣に取り組む、提出物も出ており満足できる内容である。授業での発言やグループ活動へ臨む姿勢の積極性がもう少し必要である。		毎回の授業に対する姿勢や態度があまり前向きでない。提出物の内容も不十分であり、取り組みが雑でやや熱心さに欠ける。授業での発言やグループ活動へ臨む姿勢の積極性がもう少し必要である。											
															第 2 学 期	8 月 ～ 9 月	第2部 第1章 材料とその利用 B 金属 C セラミック D 資源の再利用 第2部 第2章 衣料と食品 A 衣料の科学 【中間考査】	3 3 3 3 1
																10 月 ～ 11 月	第2部 第2章 衣料と食品 B 食品の科学 第3部 第1章 光の性質とその利用 A 光の進み方 B 光の波としての利用 C 電磁波とその利用 【期末考査】	3 3 4 2 1
																12 月 ～ 1 月	第2部 第2章 熱の性質とその利用 A 熱とは何か B エネルギーの利用 第4部 第1章 太陽と地球 A 身近な天体～太陽と月～ B 潮の満ち引き C 太陽放射と地球	2 3 2 2 2
																2 月 ～ 3 月	第4部 第1章 太陽と地球 D 大気の運動 第4部 第2章 自然景観と自然災害 A 河川のはたらきによる景観と災害 B 地震による景観と災害 C 火山による景観と災害 【期末考査】	2 2 3 2 1
															総 時 間 数		66	

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数
教科名	外国語【英語】		科目名	英語コミュニケーションⅠ														
単位数	4	学科	看護科	学年	1年	該当するコース・科 →								●	第 1 学 期	4 月 ～ 5 月	◎イントロダクション ◎LESSON0：Self Introduction ◎LESSON1：Enjoy Yopur Journey ◎James English	1 1 8 3
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ （ 発 行 所 ）																		
① 教科書：LANDMARK Fit English CommunicationⅠ（啓林館） ② 問題集：LANDMARK Fit English CommunicationⅠ WORKBOOK（啓林館）																		
学 習 の 重 点 目 標															第 2 学 期	6 月 ～ 7 月	◎LESSON2：Curry Travels around the World ◎James English	14 5
外国語によるコミュニケーションにおいて、以下の5つの領域でそれぞれの見方・考え方を働かせる事 を目標とする。また、言語活動やそれらを結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的 確に理解したり、適切に表現し伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。 （1）聞くこと（2）読むこと（3）話すこと【やり取り】（4）話すこと【発表】（5）書くこと																		
☆中間考査																	1	
評 価 の 趣 旨	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			第 3 学 期	8 月 ～ 9 月	◎LESSON4：Eco-Tour on Yakushima ◎LESSON5：Bailey the Facility Dog ◎James English	14 6 5					
	①定期考査の得点 （教科書および副教材、単語帳 の内容を中心に作問） ②小テストの得点 （単語帳の内容に関して毎週 小テストを実施）			①グループ・ペア活動の内容 （英語で自分の考えを表現する 活動を定期的実施） ②提出物・レポートの内容 （単元ごとに課題を実施）			①授業中の態度・意欲 ②ペア・グループ活動の態度・ 意欲 ③提出物の状況（問題集等）					1						
	☆中間考査															1		
評 価 の 基 準															第 3 学 期	10 月 ～ 11 月	◎LESSON5：Bailey the Facility Dog ◎LESSON6：Communication without Words ◎James English	8 8 6
知・技	A（十分満足できる状況）			B（概ね満足できる状況）		C（努力を要する状況）			1									
				B＋	B－													
思・判・表	定期考査と小テストの合計得点 が80点以上であり、基本から 応用まで万遍なく理解すること ができている。			定期テストと小 テストの合計得 点が55～79 点である。		定期テストと小 テストの合計得 点が30～54 点である。		定期考査と小テストの合計得点 が30点未満であり、基本的な 知識や概念があまり理解できて いない。			1							
	グループ・ペア活動に積極的に 取り組み、自分自身の考えを発 表したり、適切に表現できてい る。 身近な話題について英語を通し て十分に理解し、自分自身の考 えをしっかりとまとめることが できている。			グループ・ペア活動に取り組 み、ある程度自分自身の考えを 述べたり、適切に表現できてい る。 身近な話題について英語を通し てある程度理解し、自分自身の 考えをまとめることができてい る。		グループ・ペア活動にあまり取 り組むことができていない。 身近な話題について英語を通し て理解することができていな い。			7 7 3									
主 体 性 ・ 態 度	グループ・ペア活動において相 手に配慮しながら、積極的に発 言することができる。			グループ・ペア活動において相 手への配慮はできているが、も う少し積極性を要する部分があ る。		コミュニケーションを取ること ができていない。			第 3 学 期	12 月 ～ 1 月	◎LESSON6：Communication without Words ◎LESSON8：The Best Education to Everyone, Everywhere ◎James English	10 4						
	粘り強く学習し、前向きな姿勢 で学習に取り組んでいる。			概ね良い姿勢で学習に取り組ん でいる。		あまり前向きな姿勢で学習に取 り組めていない。					1							
総 時 間 数															115			

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数
教科名	保健体育		科目名	体育（男・女）												学 習 内 容		
単位数	2	学科	看護科	学年	1 年	該当するコース・科 →								●	第 1 学 期	4 月 ～ 5 月	オリエンテーション スポーツテスト① 高校生体操	8
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ （ 発 行 所 ）																6 月 ～ 7 月	高校生体操	9
① 現代高等保健体育（大修館書店） ② Active Sports2025総合版〕（大修館書店） ③ ④																		
学 習 の 重 点 目 標																		
各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、体の調子を整え体力の向上を図る。 公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。																		
	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			第 2 学 期	8 月 ～ 9 月	スポーツテスト② 陸上競技 （走り幅跳び・砲丸投げ）	12					
評価の趣旨	①各種の運動ごとに実施する実技テスト（記録）の出来具合 ②新体力テストの出来具合 ③3 学期のみ定期考査の出来具合			①各種の運動に応じた技能向上への取り組み ②グループ活動や技術達成のための取り組み ③感謝や思いやりから協力する姿勢や取り組み			①授業中の態度や意欲 ②授業への準備（服装・体操）に対する姿勢や態度 ③自己評価・振り返り・反省への態度											
	評 価 の 基 準			B（概ね満足できる状況）			C（努力を要する状況）											
	A（十分満足できる状況）	B＋	B－															
知・技	実技テストと新体力テストの合計が80点以上であり基本的な技術が習得できている。 3 学期のみ実技テストと定期考査。			実技テストと新体力テストの合計が55～79点である。 3 学期のみ実技			実技テストと新体力テストの合計が30～54点である。 3 学期のみ実技			第 3 学 期	10 月 ～ 11 月	バスケットボール （パス・シュート・ドリブル・対人プレー）	10					
思・判・表	グループ活動や課題となる運動技術の習得に積極的に取り組み、自分の考えを発言したり、適切に表現することができる。			グループ活動や課題となる運動技術の習得に積極的に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、表現することができる。			グループ活動や課題となる運動技術の習得にあまり取り組むことができていない。											
	応用的な技術にも積極的に取り組み、論理的な思考力や的確な判断力を身に付けることができる。			真面目に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。			あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。											
主体性・態度	運動技術の習得に向けて粘り強く取り組み、グループ活動やゲームでは積極的に活動することができる。			真面目に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。			あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。							2 月 ～ 3 月	ハンドボール （パス・シュート・ドリブル・対人プレー）	15		
	振り返るべき内容をきちんと考えて取り組むことができ、次の練習にしっかり活かすことができる。			振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにあまり活かしていない。			振り返るべき内容をあまり考えることができていない。											
●期末考査															総 時 間 数	55		

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数
教科名	芸術		科目名	音楽Ⅰ															4 月 ～ 5 月		
単位数	2	学科	普通科	学年	1 年	該当するコース・科 →			●	●	●					●	第 1 学 期	歌唱…歌唱①校歌他（ポピュラー） 器楽…リコーダー①基礎 楽典…音楽理論①			6
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ （ 発 行 所 ）																					
① MOUSAⅠ ② 音楽の研究プリント ③ ワークプリント ④ クロムブック																					
学 習 の 重 点 目 標																					
音楽の幅広い活動を通じて、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる基礎的な資質・能力を育成する。																					
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度												
評価の趣旨	曲想と音楽の構造か歌詞、文化的・歴史的背景などの関わりと音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能や知識が身についているか評価する。【実技試験】【定期試験】				自己のイメージをを持って音楽的表現や創意工夫することや、音楽を評価しながら良さや美しさを自ら味わって聴くことが出来ているか評価する。【レポート】【実技試験】				主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しもうとする態度について評価する。【レポート】【授業態度】												
評 価 の 基 準																					
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）												
					B＋		B－														
知・技	基本的な知識や技能が十分に身についており、高い理解力がある。				基本的な知識や技能が概ね身についている。		基本的な知識や技能がある程度身についている。		基礎的な知識や技能、理解力が不足しており、実技発表に反映できていない。												
思・判・表	演奏方法を工夫しながら知識や技術を十分に身につけることができる。				演奏方法を工夫しながら知識や技術のある程度身につけることができる。				演奏発表をきちんと行うことができず、知識や技術を身につけることができていない。												
	楽譜等の教材にあるさまざまな情報から積極性の高い演奏表現や鑑賞表現ができています。				楽譜等の教材にあるさまざまな情報から、ある程度の演奏表現や鑑賞表現ができています。				教材にあるさまざまな情報を読み取ることができず、演奏表現や鑑賞表現ができていない。												
主体性・態度	積極的に楽曲鑑賞に取り組む姿勢が見られる。				楽曲鑑賞にある程度取り組む姿勢が見られる。				楽曲鑑賞に取り組もうとする姿勢が見られない。												
	積極的に楽曲演奏・創作活動に取り組む姿勢が見られる。				楽曲演奏・創作活動にある程度取り組む姿勢が見られる。				楽曲演奏・創作活動に取り組もうとする姿勢が見られない。												
総 時 間 数																		53			

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数
教科名	芸術		科目名	美術 I																	
単位数	2	学科	普通科	学年	1 年	該当するコース・科 →				●	●	●					●	第 1 学期	4 月 5 月	・ミーティング 【絵画】 スケッチ 【デザイン】 文字のデザイン 【デザイン】 しおり制作 【鑑賞】 作品鑑賞	1 1 2 3 1
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ (発 行 所)																					
① 高校美術 1 （3 8-光村・美 I-7 0 1） ② ③ ④																					
学 習 の 重 点 目 標																					
美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を学び、育成することを目指す。																					
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度				第 2 学期	8 月 9 月	【絵画】 スケッチ 【デザイン】 デジタル練習 2 【デザイン】 アニメーション 【鑑賞】 作品鑑賞	1 2 6 1					
評価の趣旨	①作品の出来具合（作品完成度） ②レポートの出来具合				①作品の表現力（独創的・オリジナリティ） ②作品制作の進捗具合				①授業態度（教師の観察） ②学習意欲（制作進捗度合い） ③提出物等												
	評 価 の 基 準																				
		A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）				C（努力を要する状況）											
					B＋		B－						第 3 学期	10 月 11 月	【絵画】 スケッチ 【工芸】 連続する模様 【デザイン】 デジタル練習3 【課題】 レポート	1 8 2 1					
知・技	基本的な知識や技術が十分に理解できており、作品を作ることができる。				基本的な知識や技術が理解できており、作品を作ることができる。		基本的な知識や技術がある程度理解できており、作品を作ることができる。		基本的な知識や技術、理解力が不足し、作品を作ることができていない。												
思・判・表	作品を計画的に考えながら制作し、知識や技術を身に付けることができる。				作品をある程度、計画的に考えながら制作し、知識や技術を身に付けることができる。				作品を計画的に制作することができず、知識や技術を身に付けることができていない。												
	自分の考えを独創的・オリジナリティをいかして表現することができる。				自分の考えをある程度、表現することができる。				自分の考えを思い通りに表現することができていない。												
主体性・態度	積極的に鑑賞の創造活動を進んで取り組もうとしている。				鑑賞の創造活動にある程度、取り組もうとしている。				鑑賞の創造活動に取り組もうとしていない。				2 月 3 月	【絵画】 スケッチ 【課題】 レポート	1 1						
	積極的に作品作りを進んで取り組んでいる。				制作において、積極性を要する部分がある。				前向きな気持ちで制作に取り組めていない。												
総 時 間 数																	53				

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看	学期	学 習 内 容		時数
教科名	家庭			科目名	家庭基礎					D	学	特	進	進	特	特	看	第1学期	4月 ～ 5月	第6章 食生活をつくる	9
単位数	2	学科	普通科	学年	1年	該当するコース・科 →				●		●					●		6月 ～ 7月	第1章 生涯を見通す	5
教科書・副教材・（発行所）																				第2章 人生をつくる	5
①教科書：家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍） ② ③ ④																				★期末考查	1
学 習 の 重 点 目 標																		第2学期	8月 ～ 9月	第3章 子どもと共に育つ 第5章 共に生き、共に支える	6 6
生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係わる技能を身につけるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構築し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を通して課題を解決する力を養う。 (3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。																			10月 ～ 11月	第7章 衣生活をつくる 被服実習	10 1
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度				第3学期	12月 ～ 1月	第8章 住生活をつくる 第9章 経済生活を営む	4 5					
評価の趣旨	①定期考查の出来具合 教科書の内容を中心に作問 ②作品または小テストの出来具合				①練習問題や課題への取組状況や記述内容を評価。 ②単元毎の探究課題レポートの内容を評価。 ③探究課題について、グループ活動状況や発表の内容及び伝え方を評価。				①授業中の態度や意欲 ②提出物の内容 プリント ③各単元終了後に実施する自己評価・振り返り課題の提出状況や記述内容を評価					2月 ～ 3月	第10章 持続可能な生活を営む	2 1					
														総 時 間 数							

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教 科 名		科 目 名		単位数	履修形態	対象の学科・学年・コース		学期	学 習 内 容		時数
看護		看護情報		2	必修	看護科 1年		第 1 学期	4月 ～ 5月	1章情報で問題を解決する ・情報とメディアの特性 ・情報モラル ・著作権 ・ワープロソフトの基礎	1 1 8
教科書・副教材・（発行所）									6月 ～ 7月	2章情報を伝える ・ネットコミュニケーションの特徴 ・デジタルの世界へ ・情報デザイン ・ユニバーサルデザイン ・ワープロソフトの応用 期末考查	1 1 1 1 6 1
① 新編 情報Ⅰ（東京書籍） ② 新編 情報Ⅰ 資料ノート（東京書籍） ③ ④ ⑤											
学 習 の 重 点 目 標											
(1) 情報を収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能を習得する。 (2) 看護情報について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身につけるようにする。 (3) 看護情報に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (4) 看護情報について、よりよい看護の実践を目指して自ら学び、人々の健康に関する課題解決に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。								第 2 学期	8月 ～ 9月	3章コンピューターを活用する ・プログラムの基本構造 ・発展的なプログラム ・表計算ソフトの基礎	2 2 7
評価の趣旨	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		10月 ～ 11月		4章データを活用する ・インターネットのしくみ ・情報セキュリティ ・データベースの活用 ・表計算ソフトの応用 期末考查	1 1 1 1 7 1	
	①定期考査 期末考査80点 ②実技テスト タイピング、文章作成、表計算、 スライド発表		①課題の内容 ②グループワーク・発表の内容		①授業中の態度や意欲 ②ふり返り						
評 価 の 基 準								第 3 学期	12月 ～ 1月	5章活用して提案する ・プレゼンテーションソフトの基礎・応用	7
知・技	A（十分満足できる状況）		B（概ね満足できる状況）		C（努力を要する状況）		2月 ～ 3月		*看護における情報の活用と管理 ・保健医療福祉分野の情報 ・情報システムの特徴 ・情報の活用 ・情報の管理 期末考查	2 1 1 1 1	
			B＋ B－								
思・判・表	定期考査と確認テストの合計得点が80点以上であり、基本的な知識の理解することができている。		定期考査と確認テストの合計得点が55～79点である。		定期考査と確認テストの合計得点が30～54点である。		あまり前向きな気持ちで授業に取り組めていない。				
	課題に積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすくまとめることができる。		課題に取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、まとめることができる。		課題にあまり取り組むことができていない。						
主体性・態度	グループワークに積極的に取り組み、自分の考えを発表したり、わかりやすく伝えることができる。		グループワークに取り組み、ある程度自分の考えを述べたり、伝えることができる。		グループワークにあまり取り組むことができていない。						
	予習・復習に取り組み、授業にも積極的に発言し参加できている。		予習・復習に取り組み、授業に参加できている。		授業の内容についてふり返りができている。						
主体性・態度	毎時間ふり返りができ、授業のポイントについて適切な内容を表現することができている。		授業の内容についてふり返りができている。		授業の内容についてふり返りができていない。						
総 時 間 数								56			

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース										C	進	特	進	進	特	特	看護	学期	学 習 内 容		時数		
教科名	看護			科目名	人体の構造と看護					D	学	特	進	進	特	特	看護		第1学期	4月 ～ 5月		〈人体の構造と機能〉 第1章 総論 第2章 人体の構成 第3章 人体の器官系 〈栄養〉第1章 食生活について 第2章 食事摂取基準 中間考査	8 3 1
単位数	3	学科	普通科	学年	1年	該当するコース・科 →																	
教科書・副教材・（発行所）																							
①教科書：看護学入門1人体のしくみと働き（メヂカルフレンド社） ②教科書：看護学入門2栄養（メヂカルフレンド社） ③ ④																		学 期	6月 ～ 7月	〈人体の構造と機能〉 第1章 総論 第2章 人体の構成 第3章 人体の器官系 〈栄養〉 第3章 栄養素とその代謝 期末考査	14 6 2		
学 習 の 重 点 目 標																							
看護の見方・考え方を働かせ、人体の構造と機能に関する実践的・体験的な学習活動を通して、看護実践に必要な資質・能力の育成を目指す。 ①人体の構造と機能について体系的・系統的に理解するようにする。 ②生活行動や健康の基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。																							
	知識・技能				思考・判断・表現				主体的に学習に取り組む態度				第2学期	8月 ～ 9月	〈人体の構造と機能〉 第4章 運動器 第5章 体液 第6章 循環器系 〈栄養〉 第4章 病院食 中間考査	8 6 1							
評価の趣旨	①定期考査80点 1、2学期 中間40点 期末40点 3学期 期末80点 ②小テスト20点 単元毎に小テストを実施する				①課題レポート内容 単元毎にレポート課題を提出 ②グループワーク・発表の内容 学習の内容をまとめ、発表する				①授業態度や意欲 ②レポートの提出状況 ③ノート・ファイル提出状況 ④BLENDでの学習の振り返り														
	評 価 の 基 準																						
	A（十分満足できる状況）				B（概ね満足できる状況）		C（努力を要する状況）																
					B＋	B－																	
	知・技	定期考査と小テストの合計点数が80点以上であり、基本から発展まで満遍なく理解ができている。				定期考査と小テストの合計得点が55～79点である。		定期考査と小テストの合計得点が30～54点である。		定期考査と小テストの合計得点が30点未満であり、基本的な知識や概念があまり理解できていない。													
思・判・表	レポートに課題を適切にまとめ、適切に表現することができる。				レポートに課題をまとめることはできている。				レポート提出に遅れが見られ、内容にも不足が多い。														
	グループワークに積極的に取り組み、自分の考えを伝えたり、周囲への働きかけができている。				真面目にグループワークに取り組む、自分の意思を伝えようと努力している。				グループワークにあまり積極的に取り組むことができない。														
主体性・態度	予習・復習に積極的に取り組み、授業にも積極的に発言し参加しようとしている。				予習・復習に真面目に取り組んではいるが、もう少し積極性を要する部分がある。				あまり前向きな気持ちで学習に取り組めていない。														
	振り返るべき内容を考えて表現することができ、次の取り組みに活かすことができている。				振り返るべき内容を表現することはできているが、次の取り組みにはあまり活かしていない。				振り返るべき内容をあまり考えることができない。														
総 時 間 数																		99					

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数		
教科名	看護		科目名	疾病の成り立ちと回復の促進												学 習 内 容			時数	
単位数	1	学科	看護科	学年	1 年	該当するコース・科 →								●	第 1 学 期	4 月 ～ 5 月	第1章 疾病の成り立ちを学ぶ ・病理学の範囲 第2章 疾病の成り立ち (病気の考え方、病気の種類とその要因) 第3章 先天異常 ・定義、分類、発生機序、代表的疾患 中間考査	4 1		
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ (発 行 所)																第 2 学 期	6 月 ～ 7 月	第4章 退行性病変と進行性病変 Ⅰ 退行性病変(壊死、アポトーシス、萎縮、変性) Ⅱ 進行性病変(肥大、再生、化生、損傷の修復と肉芽組織、異物に対する反応と処理) 第5章 循環障害 Ⅰ 循環障害とは 期末考査	4 1	
学 習 の 重 点 目 標																	第 3 学 期	8 月 ～ 9 月	Ⅱ 循環障害 Ⅲ 局所循環障害①(充血、うっ血、虚血、側副循環、出血) 中間考査	6 1
看護の見方・考え方を働かせ、疾病の成り立ちと回復の促進に関する実践的・体験的な学習活動を行うことを通して、看護の実践に必要な資質・能力を次の通りに育成することを目指す。 (1) 疾病の成り立ちと回復の促進について体系的・系統的に理解するようにする。 (2) 基本的な課題を発見し、看護倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。 (3) よりよい看護実践を目指して自ら学び、多様な人々の健康の保持増進に主体的かつ協働的に取り組む。																		第 4 学 期	10 月 ～ 11 月	Ⅳ 局所循環障害②(血栓症、塞栓症、梗塞) Ⅴ 水及び電解質代謝異常(浮腫、脱水) Ⅵ 全身的な循環障害(ショック、高血圧症、心不全) 期末考査
評 価 の 基 準															第 5 学 期				12 月 ～ 1 月	第6章 炎症(炎症とは、炎症の過程、炎症性細胞の種類、炎症の経過、炎症の分類) 第7章 腫瘍(腫瘍とは、腫瘍の種類(分類・原因・診断法・病期/進行度・腫瘍マーカー))
																第 6 学 期			2 月 ～ 3 月	第7章 腫瘍(腫瘍とは、腫瘍の種類(分類・原因・診断法・病期/進行度・腫瘍マーカー))残り 期末考査
																	総 時 間 数		38	

学 習 指 導 計 画 ・ 年 間 授 業 計 画

教科・科目・履修形態・単位数・学科・学年・コース							C D	進 学	特 進	進 文	進 理	特 文	特 理	看 護	学期	学 習 内 容		時数		
教科名	看護		科目名	基礎看護												学 期	学 習 内 容			
単位数	5	学科	看護科	学年	1 年	該当するコース・科 →								●	第 1 学 期	4 月 ～ 5 月	a：第1編 第1章 看護のとらえ方 b：第2章 看護の共通技術 第1節 コミュニケーション 第2節 感染予防 第3章 日常生活の援助 第1節 日常生活の理解 中間検査	5 11 1		
教 科 書 ・ 副 教 材 ・ (発 行 所)																第 2 学 期	6 月 ～ 7 月	a：第2章 対象の理解 b：第3章 日常生活の援助 第1節 日常生活の理解 第2節 環境調整 第5節 活動・運動 期末検査	4 20 1	
学 習 の 重 点 目 標																	第 3 学 期	8 月 ～ 9 月	a：第3章 患者心理の理解とその必要性 第4章 健康の概念 b：第2章 第4節 フィジカルアセスメント 第3章 第8節 衣生活 中間検査	5 28 1
看護の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的学習活動を行うことを通して、看護の基礎となる資質・能力を育成することを目指す。 ①看護について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 ②看護に関する基本的な課題を発見し、看護の職業倫理を踏まえて合理的かつ創造的に解決する力を養う。																		10 月 ～ 11 月	a：第4章 健康の概念 b：第3章 第7節 身体の清潔 期末検査	6 26 1
評 価 の 基 準															第 3 学 期			12 月 ～ 1 月	a：看護における倫理 b：第3章 第3節 食事と栄養 第3章 第6節 休息と睡眠 第3章 第4節 排泄の援助	9 18
																2 月 ～ 3 月		a：第3編 第3章 看護の変遷 b：第4章 診察に伴う援助 第4節 第1節 呼吸・循環・体温調節 学習のまとめ・振り返り 期末検査	1 22 1	
																総 時 間 数		156		